

おおくまの絆



1



4



5



2



3



6



7



8



9



10



13



11



12



14

C o n t e n t s

- 顔晴ろう大熊っ子大会 運動会 2 3
- ふるさとまつり inいわき 4
- 大熊中学校「柏陽祭」 5
- 「故郷を忘れない」岡田 愛莉花 6 7
- トピックス 8
- 社協からのお知らせ 9
- 開業・開店のお知らせ 10
- みんなのフォトギャラリー 11
- キラキラキッズ「学習発表会」 12

1 2 3 4 5 運動会 6 7 8 11 柏陽祭 9 10 12 ふるさと祭
13 大熊町防犯みまもり連絡隊 14 ふくしま駅伝



9月15日(土)
熊町・大野小学校

顔晴ろう! 大熊っ子! 大会

快晴に恵まれた9月15日、会津若松市河東町の熊町・大野小学校校庭で大熊町の幼稚園、小学校、中学校の合同の運動会「顔晴ろう!大熊っ子!大会」が行われ、幼・小・中合わせて500人の子供達が参加しました。



去年に続き二回目の開催となった運動会は、今年も大日本住友製薬株式会社の支援によって開催されました。コーポレート・コミュニケーション部震災復興支援チームの斉藤雄一郎さんは「今年も全国の社員からボランティアを募り、十二名参加させていただきました。またこの場に來られなかった社員からの手作りの応援フラッグを、各テントに貼らせていただきました。八月に出版された大熊町教育委員会教育長の武内敏英さんの著書『大熊町学校再生への挑戦』の中に去年の運動会の記述があり、それを読んだ斉藤さんは「運動会が絆を作ると感じました。大熊町の

人達にとって明日

につながるこの運動会をお手伝いさせていた

きたいと思っています。

また同チームの丸山潤美さ

んは、自身の故郷が宮城県で、ご実家も震災の被害を受けたそうです。「私の

通っていた小学校は津波の被害を受けてしまい、そのことで小学校の時の思

い出がより一層強いものになりました。私の場合とは少し違いかもしれませんが、この運動会が大熊町の子供達の思

い出に残るように、精一杯お手伝いをしたいと思います」と話してくれました。





大熊ふれんずの皆さん



アンパンマンになりきって



騎馬で神旗をねらいます



新入学児童による宝拾い



大会会長を務めた小野田敏之大熊中学校校長は「去年から一年半お世話になった会津若松のたくさんの地域の方への恩返しのお気持ちを込めて開かれている大会だと思います。子供達が不安をかかえる中でも元気にがんばっている姿を見ていただきたいと思います」と感謝の言葉を口にしていました。震災当初から小学校の花壇の整備などの手伝いをしていくボランティアグループ「大熊ふれんず」の方たちはこの日も大勢見え、子供達に歓声を送ったり、競技に参加したりしていました。中学校三年生の息子さんの応援へ来た吉岡さんは「去年の運動会は千葉の方へ避難していたため参加できませんでした。三年生は少なくなりましたが、その分、小さい子供たちと一緒に運動会を楽しむことができてよかったです」と感想を語ってくれました。



中学生男子の組体操は圧巻!



脇本 美空 さん
(大野小学校6年生)

小学校最後の運動会で
勝つことができ
うれしかったです(紅組が勝利)



吉田 健人 君
(大熊中学校3年生・
組体操男塾塾長)

練習のときは少し
不安な所がありました
が、本番でしっかりと決める
ことができ良かったです





各仮設住宅でこの日の為に作られた100点の手作りの品が並びました



大熊町ふるさとまつり

in いわき

十月二十八日、震災後三回目となるふるさと祭りが開かれました。過去二回の会津での開催に変わり、今回はいわき市での開催となりました。会場は、十月一日よりいわき市好間工業団地第3仮設住宅となりへ移転した、大熊町役場いわき連絡事務所前で、当日は様々なブースが軒を連ねました。ステージでは、ゴースターズショー、「孫」で有名な大泉逸郎さんとヒット曲「ノラ」で知られる須賀川市出身の門倉有希さんによる歌謡ショーなどが行われ、小雨が降るなか多くの来場者で賑わいました。

いわき市内で暮らしている新谷孝明さんは「雨が降る中でも開催できてよかったね。思っていたよりも人出が多くて、東京からきているという人もいたよ。こういう機会でないともんなが集まることがないからいいね」と感想を話してくれました。

ステージの最後には、よさこいで全国的に有名な「関西京都今村組」が登場し、時おり雨が強くなる中、迫力のあるパフォーマンスを披露しました。最初は、中学生や高校生などが見せる、若さ溢れる踊りに圧倒されていた観客達も、雨の中で懸命に舞う姿を見て、次第にその雰囲気にも飲み込まれていきました。アンコールでは大熊町民も一緒にたって体を動かして、今村組のメンバーと肩を組んで掛け声をかけるなど、会場は大いに盛り上がりを見せました。



大熊中学校文化祭 「柏陽祭」

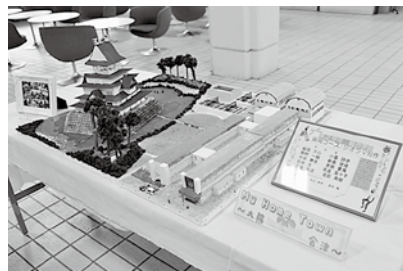
大中 memory ~永遠に続く我らの絆~



十月十九日、会津若松市文化センターで大熊中学校文化祭「柏陽祭」が行われました。

「大中 memory 永遠に続く我らの絆」と銘打たれた文化祭は、開会セレモニーの後、岡田愛莉花さんの作文「故郷を忘れない」の発表へと続きました。岡田さんは水の作文コンクール全国大会で優秀賞を受賞し、また、人権作文コンテスト福島県大会でも最優秀賞を受賞した実績があり、今回の作文は文化祭の為に作られたものです。（作文は次のページに掲載しています）

その後、生徒会執行部による「全国生徒会サミット」の報告があり、続いて運動会での女子のソーランに代わり、男子による「ソーラン男塾」が披露されました。三年生の各組が見せた演劇は会場を笑いに包み、次の吹奏楽部の発表は拍手喝采となりました。午後は全校生徒



による合唱コンクールが行われ、各学級とも練習の成果を発揮し息の合った歌声を聞かせてくれました。



文化祭の最後には、サプライズ企画として、ロンドンオリンピックに出場



した会津若松出身でボクシングフライ級日本代表の須佐勝明選手が、同じ自衛隊体育学校のレスリング女子四十八キログラム級で金メダルに輝いた小原日登美選手、ボクシングバンタム級で銅メダルに輝いた清水聡選手と一緒に登場し、講演会を行いました。三選手はオリンピックでの思い出話や、トレーニングの実演などを披露し、生徒達は目を輝かせて見入っていました。終わりに三選手は「挑戦」（須佐選手）、「継続は力なり」（小原選手）、「がんばろう」（清水選手）とそれぞれが色紙に書き、中学生達へエールを贈りました。



故郷を忘れない

福島県大熊町立大熊中学校 二年

岡田 愛莉花

春は桜でピンク一色に染まる町。夏は浜風で涼しい町。秋は遠くの山並が燃えるような紅葉に色づく町。冬は暖かく、たまに降る白い雪でキラキラ輝く町。私が生まれ育った大熊町は四季おりおりの風景が美しく、私達の目を楽しませ心を和ませてくれる、とても住みやすい町です。

私の住む地区は、昔ながらの商店街でいろんなお店が軒を連ね、常に人々が行き交い笑い声の絶えない活気にあふれた町です。中学校の近くには立派な図書館があります。私はその図書館が大好きでした。なぜなら、いろいろなジャンルの本が豊富で私の読みたい本がすぐ手に入ったからです。私の自慢の図書館で県内でも一番だと思っています。隣近所の人達はとても仲が良く、困ったときはお互いに助け合ったり、美味しい物は分け合って食べるのがごく普通のことでした。春や夏は、自然豊かな山を登ったり、広大な海で泳ぐのが楽しみでした。秋や冬は、友達と野原でかわいい花を摘んだり、とんぼを追いかけたり、雪合戦をして遊びました。大熊町で過ごした日々は、毎日が輝いていて宝物のようでした。そんな幸せな日々を、あの東日本大震災は一瞬のうちに奪っていったのです。

三月十一日。経験したことのない大きな地震、豹変した海。そして、絶対起きないはずだった東京電力福島第一原子力発電所の重大事故。あつという間に町は汚染され、故郷を追われました。いつ戻れるのか何も分からないまま私達は、今も故郷から遠く離れた地で避難生活を送っています。ニュースで大熊町の映像が映し出されると、一番に思うのは「帰りたい」という気持ちで胸が一杯になります。しかし、今の大熊町はとても帰れる状態ではありません。それでも私達は、ひたすら故郷に帰る日を待ち続けています。一時帰宅から帰った祖母や母は「とても住めるような状況ではない」と言って悲しい顔をします。その言葉を聞かたび、私の心は絶望と悲しみで張り裂けそうになります。

数日前、母の車で通った道や風景が、とても懐しく感じられました。私はどこかで、その道や風景を見たような気がしたのです。「あれはどこだったのだろうか。」必死に記憶をたどってみました。すると、あの道や風景と同じ所が大熊町にもあったというのを思い出しました。私の心の奥底に眠っていた「心の風景」を思い出したのです。私は嬉しくなりウキウキしてきました。



ひまわり街道



三ツ森山のアジサイ



春の坂下ダム



会津に避難してきて結構時間が過ぎていて、ふるさとの風景をだんだん忘れていってしまっているかもしれませんが、本当は心の中には残っているんだよということをみんなに伝えたいと思いました。それに被災してもくよくよしているんじゃないくて、私たちが先頭をきって復興を進めていこうよという気持ちをみんなに広めたいという思いもありました。また、会津の方や世界の方たちの支援に感謝する気持ち、そういったことを考えて書きました。

ふと何でもない風景を大熊町の風景と重ね合わせ故郷を忘れていない自分を誇らしく思えてきたのです。震災から一年以上経った今も、大熊町に帰れるのは何年後なのか分かりません。でも、皆の心の中からの美しい故郷の風景は忘れることはないと思います。

三月十一日以降、毎日のようにテレビで放映されている「原発事故」目に見えない魔物と私達は一体いつまで闘うのでしょうか。

今、私達中学生に出来ることは何なのかを考えてみました。それは、毎日元気に過ごすことだと思えます。勉強も部活も一生懸命取り組みます。友達とも仲良く協力して生活します。私が我慢して改善できるなら我慢します。私達中学生が出来る事は全力でがんばります。ですから、故郷にある放射性物質を一刻も早く除染して下さい。一日でも早く故郷で生活できるように努力して下さい。故郷に帰り、もう一度自然豊かで笑い声のあふれる大好きな大熊町で生活したいと願っています。

ある歌詞に

「明日からすべてが始まるよ君の日々だよ
明日から新しい日々だよ君の日々だよ
僕らは福島が好き」

こんな言葉がありました。私達には未来があります。三月十一日以降時間が止まったわけではありません。苦しい事や辛い事ばかり考えて悩んでいても何も始まらないのです。世界中の人達が私達を応援してくれています。特に会津の方々の優しさと温かい心遣いに私達は生きる勇気と希望を与えていただきました。心から感謝しています。皆さんへの恩返しのためにも私達は、新しい明日に向かって進まなければならぬと思っています。

この震災で大熊町の人達は、それぞれ全国各地に避難し、遠く離れてしまいました。でも私は遠く離れていても「心」だけは、いつも寄り添っていると思っています。あのすばらしい故郷である大熊町で築き上げた心の絆は、いつまでも皆の心の中に生き続けます。どんな状況であっても、私は大熊町が大好きだという気持ちに気づきました。大好きな大熊町を元のように取り戻すために、みんなで助け合って一歩ずつでも前に進んでいきたいと思っています。四季折々の美しい「心の風景」は、私の心の中から決して忘れることはないでしょう。



熊川から朝日を臨む



賑わう熊川海水浴場



第24回市町村対抗 ふくしま駅伝

十一月十八日、第24回ふくしま駅伝が開催され、白河市総合運動公園陸上競技場から福島市の県庁前までの16区間96.5kmのコースを、51チーム八〇九人の選手達が駆け抜けました。大熊町は中高生主体の若いチームでレースに臨み、強い風が吹き荒れ、小雨がぱらつくハードなコンディションの中、五時間五六分五八秒でゴールしました。当日は各地から大熊町民の方達が沿道に姿を見せ、会津からバスで応援に駆けつけた方達は、毎年持つてきているという手作りの横断幕を掲げて、目の前を走っていくランナーに声援を送っていました。

三年前には兄妹で襷リレーもしたという、中里光星さん・茜理さん兄妹。現在一人は母親と共に福島市に住んでいて、市内の高校に通っています。父親の典仁さんは仕事の為いわき市に住んでいて、普段は離れて生活しているということです。五大会連続の出場と

なった光星さんは「今回は記録よりも走り切ることができて良かったと思います」、同じく三回目の出場となった茜理さんは「今日は自分らしい走りは出来ませんでした、大熊町の方々に応援してもらってうれしかったです」とそれぞれ感想を話してくれました。父親の典仁さんいわきから応援に訪れ、光星さんの高校生活最後のふくしま駅伝での走りを、目に焼き付けていたようでした。

中学生の息子、怜君と親子での出場となった監督の中野貴洋さんは「みんなが集まったこの練習は出来ませんでした、会津若松市チームに声を掛けていただき、十月半ばから週に二、三回、中学生を中心に合同練習をさせていただきました。私自身、初めての監督で、他のメンバーの練習も見ることができず、不安なこともたくさんありましたが、選手みんなが笑顔で戻ってきてくれたので良かったです。今年は、来年、再来年とつながるチーム作りを目標としていたので、その点では良かったと思っています」監督の言葉通り、若い選手達が今年のレースの経験を生かし、来年以降、好成績を残すことを期待せずにはいられません。

大熊町防犯みまもり連絡隊

TOPICS

10月11日、大熊町役場いわき連絡事務所で「大熊町防犯みまもり連絡隊」の発足式が行われ、併せて警察の方から装備品も贈られました。この隊は、好間町仮設住宅の自治会が中心となり、有志の方たちで組織されました。隊の目的は、仮設住宅敷地内はもとより、その周辺を含めた付近のパトロールで、警察と連携しながら地域の安全安心を確保していくということです。

隊長の渡部真網さんは「自治体の会長をやらせてもらっていて一番心配なのが、防犯のことと1人暮らしのお年寄りの方たちのことです。このみまもり隊の結成をきっかけに、今まで以上にそういった所を重点的にみまもりを行っていきたいですね」と話してくれました。

その後みまもり連絡隊の方々は、早速、装備品を身につけ、それぞれの班にわかれて警察官と仮設住宅内を巡回し、住民の方に声をかけていました。





つながっぺ!おおくま 社会福祉協議会からのお知らせ

会津若松出張所 〒965-0873 会津若松市追手町2番41号(会津若松市役所 追手町第2庁舎内) TEL:0242-29-5760 FAX:0242-29-5761
いわき連絡所 〒970-1144 いわき市好間工業団地1番43号(大熊町役場いわき連絡事務所内) TEL:0246-38-8920 FAX:0246-38-8921

福島応援コンサート「LOVE-EASTつながっぺ!おおくま」を開催



11月16日(金)、會津稽古堂において社会福祉協議会と福島・沖縄絆プロジェクトの主催のもと沖縄県のアーティストらによる福島応援コンサートを開催いたしました。

コンサートでは琉球王国時代の王と王妃の愛の物語を描いた琉球オペラ「アオリヤエ」と高等学校音楽の教科書に採用された「HEIWAの鐘」を歌う歌手のユキヒロさんによるライブや「コーラスおおくま」も加わったコラボレーション。最後は沖縄民謡の曲に合わせた踊りで会場は一体となり一気に盛り上がりました。また、特別出演の岬花恵さんが「ああ人生に涙あり」を熱唱いたしました。

会場に駆け付けた町民のみなさんは、沖縄の音楽や文化に触れ、楽しいひと時を過ごしました。



訪問活動を通り・相馬地区に拡大

当協議会では、会津若松市及びいわき市において生活支援相談員を配置し、避難者の見守り・訪問事業をしております。

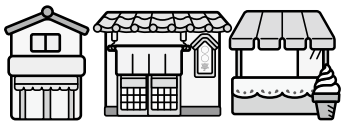
この度、避難者支援相談員を配置し、中通り地区及び相馬地区に避難している町民の訪問見守り活動等の充実を図るとともに、地域コミュニティの維持継続を目的に「高齢者等見守り活動事業」を実施することになりました。

この事業は大熊町から委託を受け行うもので、安否情報をもとに避難先を把握し、避難先の社会福祉協議会と連携を図りながら計画的な訪問活動等を行う予定です。

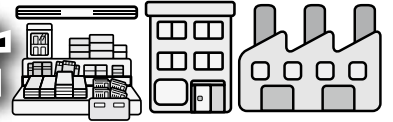
今後準備が整い次第、中通り・相馬地区に避難している方々のお宅に相談員が訪問し、現況についてや困りごとなどのお話を伺いながら支援に努めてまいります。

★避難者支援相談員のお仕事★

高齢者等の安否確認や情報提供を行います。
福祉サービスを利用することが出来るよう相談や各種調整を行います。



開業・開店のお知らせ



富山電気設備工業株式会社

福好浜通り事業所

代表取締役 島山 潤一 さん

社員も10名ほど戻り、避難先から業務にあたっております。
お客様の立場で考え、現場主義の原点に返って再出発しております。

2013年弊社カレンダーをご希望の方、住所をご連絡ください。
先着50名様にプレゼントいたします。お早めに!

〒979-3131 いわき市平赤井字田町182-1
●TEL 0246-68-8461 ●代表者携帯 090-2027-0468
●FAX 0246-68-8496



VAN COUNCIL いわき店

サロンマネージャー
渋谷 美幸 さん

皆様、お久しぶりです。お元気ですか?

OPENして1年がたとうとしています。ヴァンカウンシルでは、毎年恒例の福袋が予約開始になりました。この機会にぜひおためし下さい。 ヴァンカウンシル スタッフ一同

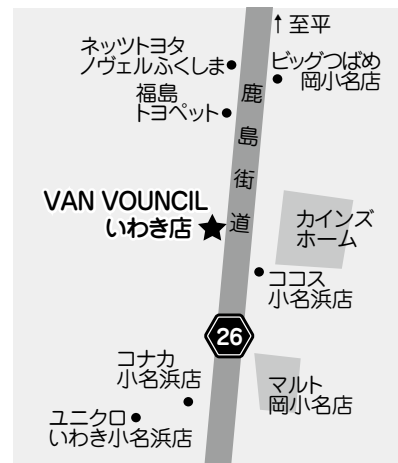


新店オープンにつき スタッフ大募集

スタイリスト・アシスタント・レセプション(受付)・ネイリスト

未経験者大歓迎!
求人担当:片野まで

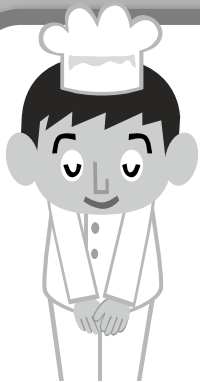
〒971-8151 いわき市小名浜岡小名岸前58-1
●TEL・FAX 0246-92-2224 ●ホームページ <http://ameblo.jp/vancouncil-iwaki/>



募集

大熊町関連の開業・開店情報を募集しております!大熊町商工会まで、情報をお寄せください。

〒965-0873 福島県会津若松市追手町2番41号TEL■(0242)29-5770 FAX■(0242)29-5771

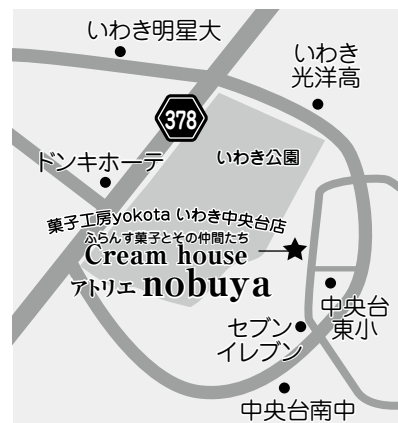


求人のお知らせ

前号にて再開のお知らせを掲載した「菓子工房yokotaいわき中央台店クリームハウスアトリエnobuya」が12月1日にオープンいたしました。現在、スタッフ(正社員・パート・アルバイト)を募集しておりますので、洋菓子にご興味のある方はぜひご連絡ください。

(有)横田菓子店
代表 横田信行さん

福島県いわき市中央台高久1-13-2
TEL:0246-38-8491
FAX:0246-38-8492





姉弟仲良く

①谷津 くるみ・昴・北斗
②熊川 ③静岡県下田市
あれから1年半、前向きに頑
張って日々生活しています。
子供たちも元気でヤンチャ
に育ってます★どこかで会
えたら声かけてね!

みんなの フォトギャラリー

①お名前②大熊住所③現住所 コメント

昭和32年熊町中学校卒同級会

①吉田秀夫 ②小良浜 ③いわき市岩間町天神前



昭和32年熊町中学校卒同級会、古希を祝う
会を10月23日湯本温泉「新つた」で開催しま
した。ほんとうに懐かしく手を取り合い、時には
名前と顔が一致せずの古希でした。震災、津波
で友(同級生)を亡くしたり、また家を流された
方などさまざまでした。

これからも前向きに頑張ろうと最後に故郷を
合唱。散開しました。涙、涙でした。

絆ツーリング ①亀田 ②下野上 ③田村市



7/29、富岡町、いわき、南相馬の友人の3
名で陸前高田市の一本松を見る途中休憩した
所。周りには津波で流され建物はなく、漁船が
道路脇に立っている様子は異様でした。船首
の船底にはつぶされた自家用車があり、黒く
コゲていました。

声を掛けてくれる友人に感謝です。



運動会スナップ



陸前高田の一本松です。大勢の見物人が来
ていました。私には不思議に感じられましたが
本人もその一人なんだと思うと、多くの人が
亡くなった場所が観光地化している現実に複
雑な気持ちになった次第です。

あの人に伝えたい「ありがとう」◎みんなのフォトギャラリー 投稿募集中!

A あの人に伝えたい「ありがとう」

伝えたい「ありがとう」はありませんか?直接言うのが難し
い、あなたの「ありがとう」の気持ちを紹介させてください。

直筆ハガキ、
絵手紙なども
OK!

B みんなのフォトギャラリー

みなさんがお撮りになった写真を募集して
おります!題材はなんでもOK!



- ①お名前②大熊町での大字名③現在お住まいの都道府県や市町村名をお書きください。※匿名をご希望の際は、その旨お知らせください。
 - Aの「あの人に伝えたい「ありがとう」」はメールの本文かテキストファイルを添付してご応募ください。ハガキ・封書での投稿もお待ちしております。
 - Bの「みんなのフォトギャラリー」は携帯メールかPCメールに画像を添付して、画像のタイトルやコメントも記載してください。
- *掲載はモノクロになります。*ご応募いただいた原稿は返却できませんのでご了承ください。

メールでの応募先

okuma@next-hamashin.co.jp (右のQRコードからもメールを送れます。➡)

郵送での応募先

〒965-0873 福島県会津若松市追手町2番41号
大熊町役場 会津若松出張所総務課「おおくまの絆」係





平成24年度
熊町小学校・大野小学校合同学習発表会



10月27日、熊町・大野小学校体育館で合同学習発表会が開かれ、およそ1ヶ月間、この日の為に2つの小学校が力を合わせて練習をしてきた演目を発表しました。

1年生の元気いっぱいのダンスで幕を開けたこの会は、コール劇「モチモチの木」へと続き、国語の教科書に出てくる話を3年生が感情いっぱいに読み上げました。次に登場した4年生は10歳、「2分の1成人式」ということで、各児童が将来の夢や二十歳の自分達へのメッセージを語りました。2年生は「世界中の子どもたちが」を群読し、その後、いきものがかりのヒット曲「笑ってたいんだ」に合わせ、児童たちは息の合ったダンスを披露していました。5年生は「枕草子」の群読から「風になりたい」の曲に合わせてのポディーパーカッション、そして「世界が一つになるまで」の合唱の3部構成で『過去から未来へ』というテーマを表現しました。最後に登場した6年生は「走れメロス」と谷川俊太郎の詩「生きる」の群読を行いました。特に「生きる」の群読では、今生きていることへの感謝と、その命を輝かせることの大切さを伝えるという目的のもと、児童達が凛とした表情で詩を読み上げる姿に、会場では涙する保護者の姿も見られました。

メロスを演じた熊町小学校の6年生箭内直哉君は「少し間違えてしまったところがありましたが、かえってそれで緊張が解けて楽しく演じることが出来ました」と話してくれました。6年生の保護者の方からは「大熊にいた時と比べると人も少なくなり、子供達も大変な思いをしているところもあると思います。ただ、その中でも子供達ががんばっている思いが伝わってきて、こちらが元気づけられました」といった感想が聞かれました。



みんなのおもいをつなげる大熊町コミュニケーション誌

おおくまの絆

発行 大熊町

大熊町役場 会津若松出張所
〒965-0873 福島県会津若松市追手町2番41号 (会津若松市役所 追手町第二庁舎内)
フリーダイヤル 0120-26-3844 代表(8時30分～17時15分) FAX 0242-26-3794
E-mail okuma@town.okuma.fukushima.jp
ホームページ <http://www.town.okuma.fukushima.jp/>

2012年12月発行